心の散歩道

「１０８の煩悩の源は１０８の元素のバランス（つりあい）の崩れ、あるいは逆に、１０８の元素のバランスの崩れの源は、１０８の煩悩の存在」と考えに結びつくことになると思うのです。

これは、江本勝医学博士著『波動の人間学』の中の一節です。

物質（肉体）の元素は１０８あり、それぞれが陰の場と陽の場に分かれているが、それがずれたり逆転すると異常事態、悩みや病気が発生する。悩みの原因は、肉体のバランスの崩れにあり、また、肉体のバランスの崩れの原因は、１０８の心の乱れに原因がある。体と心とは互いに影響し合う一体のものである――という意味でる。

例えば、水銀にはその特有の波形があるが、しょっちゅうイライラしている人は、水銀のマイナスの波形とほぼ同一であるとのことであり、同様に怒りやすい人は鉛の波動、人間関係のストレスで悩んでいる人は亜鉛の波動、悲しみ、さびしさに沈んでいる人はアルミニウムの波動、心配、不安性の人はカドミウムの波動――などに近付くという。だから、各元素のマイナスの波形を見れば、その人の心情が分かるというのである。

そして、同じことでも、いい気持ちの時には感謝で受け取ることができるが、マイナスの気持ちの時には、恨みの気持ちで受け取ってしまうことがある。この”感謝”と”恨み”の波形は全く同じ波形であり、ただ、場がプラスとマイナスの逆波形となっており、中和するという。

従って、恨みを消すには、感謝のプラスの波動を出し続けると、中和されるというのである。

お大師様のお言葉に、　『四魔現前すれば、すなわち大慈三摩地に入り、四魔等を恐怖（くふ）し降伏（ごうぶく）』 とある。人を害する悪魔に対して、大慈大悲の温かな心境でもって相対すれば、悪魔は恐れ戦いて降参してしまう――　とあるのは、マイナスの尖った悪魔の思いに、大慈大悲の円やかなプラスの霊光（波動）を注ぎ続けることによって、中和されて無害となる、ということであろう。

優しさと怒りの波形も、安心と不安、思いやりとわがままも同様に、逆の形ではあるが、同じ波形であるという。だから、怒りっぽい人でも、プラスの思いの時には、優しい面が出るのである。

そこで、常にプラスのゆったりとした、安らかな心の状態にすること――これが信心の目指すところであると思うのです。